秋田魁新報　2024年10月04日付　県南

「大農花美豚」いかが

あすから大仙のスーパーで販売

大仙市の大曲農業高校の生徒が学校農場で育てた豚の精肉があす5日から、「大農花美豚」の銘柄で市内のスーパー・グランマート4店で販売される。初日は生徒が売り場に立ち、買い物客に商品をPRする。

高校生が飼育し命名

高校と県食肉流通公社（秋田市）、グランマートを展開するタカヤナギ（本社大仙市）が協力して販売する。高校では以前から農場で飼育した豚を公社に出荷。新たに銘柄として販売することで、地産地消を推進し、飼育した豚が消費者に届くまでの流通を生徒に学んでもらおうと企画した。

販売するのは三元豚の精肉。銘柄は生徒が、校名や大曲の花火、きれい好きな豚の習性、上品な肉質から「大農花美豚」と命名した。生徒は日々、餌やりや豚舎の掃除、体重測定などを行ってきた。

公社担当者によると、高校の農場は一般的な養豚施設よりも広いスペースで豚を飼育しており、生徒による丁寧な世話でストレスや健康に配慮されて育ち、上質な肉質になっているという。

1回目の出荷となる今回は、生徒が4月から飼育してきた11頭の精肉を販売する。ロースやバラ、モモなどさまざまな部位、切り方の肉がパックで売り場に並ぶ。5、6日の2日間、グランマート中通店、飯田店、白金店、イーストモール店の4店舗で販売。今後も入荷し次第売り場に並ぶ。

デビューに合わせ5日午前10時～正午、飯田店とイーストモール店で生徒が売り場で買い物客に試食を勧めながら、肉質の特徴や飼育の取り組みを説明する。

農業科学科3年の小畠真太郎さんは「食卓に届けられるまで育って良かった。大切に世話をしてきたので、命の重さを感じながら、おいしく食べてもらえたらうれしい」と話す。（針金友理子）

大農花美豚のしょうが焼き用ロース（タカヤナギ提供）

豚舎で豚の飼育をする大農高生

ⓒ秋田魁新報社